

# 「島根県立こころの医療センター」建物完成 ～2月に湖陵病院が移転します～



平成20年2月1日、湖陵病院は下古志町に移転し、『こころの医療センター』として新たに開院します。新病院は、島根県の精神医療の基幹的病院として、外来機能を強化するとともに、児童思春期などの専門医療や救急医療の一層の充実が図られ、従来にも増して良質で「こころのこもった医療」が提供されます。

- 診療科目／精神科、神経内科、心療内科
- 病床数／5病棟242床
- 延床面積／病院本体：16,131㎡  
若松分校〔院内隣接〕：898㎡
- 附帯施設／駐車場176台、駐輪場20台
- ◆おたすね  
県立湖陵病院 ☎43-2102

## 原始人はこんな顔？

～県内最古級の人面付土器出土～

JR出雲市駅から南へ1.2km離れた築山遺跡発掘調査現場(上塩治町)から、県内最古級の人面付土器が出土しました。

この土器は、縄文時代晩期から弥生時代前期ごろ(2800年～2500年前)のもので、古墳時代の築山遺跡とは別の時代のもので、これまで、県内では同様の土器が2例出土(三田谷I遺跡、小丸遺跡)していますが、はっきりと人面と確認できるものは今回が初めて。大きな鼻が付けられ、顔

面の表現がしっかりしていることが特徴で、平面的でひげがつけられる東日本出土の人面付土器とは顔の表現方法が明らかに異なります。

島根大学法文学部 山田康弘准教授は「西日本での人面付土器の出土例はあまりありません。当時の文化の流れは西日本から東日本へ向かっていったとされていますが、出雲の地は東西の文化の交流拠点であったのではと考えられます」と話します。

古代出雲文化の謎が徐々に解き明かされています。



出土した人面付土器は縦横49センチ、土器の縁はけられたものと考えられています。鼻が大きく、鼻の穴もはっきりあっています(10月25日)

# いずもの話題 TOWN NEWS

## 大社門前町の活性化に ～日本ぜんざい学会老号店オープン～

市では、大社門前町の再生に向けて、空き店舗対策を進めています。10月25日、出雲が発祥の地と言われている“ぜんざい”を全国にPRしようと活動を行っている日本ぜんざい学会(田邊達也会長)が、神門通りの空き店舗に日本ぜんざい学会老号店(大社町杵築南)をオープンさせました。

市の新たな出雲ブランドとなる出雲産小豆(大納言)を使用した「出雲ぜんざい」や「ぜんざい餅」、西浜いもづるを佃煮にした「いずも煮」などを販売しています。

出雲ブランド“出雲ぜんざい”の名を全国に情報発信する場として、また、大社門前町の活性化に期待が高まります。



出雲ぜんざいを食べたお客さんからは、「餅もやわらかいし、甘さも控えめでおいしい」「餅がのびて、寿命ものびそう」と大変好評でした(10月25日)



伊野コミュニティセンターに集合する住民の皆さん。訓練後は、玉湯体育館(松江市)などで行われた原子力学習や避難所を視察しました(11月2日)

## いざというときに備えて ～原子力防災訓練を実施～

11月2日、島根原子力発電所での不測の事態に備えるとともに、原子力防災への意識を高めるために、市としては初めてとなる出雲市原子力防災訓練を実施しました。

訓練は、島根原子力発電所(松江市)から10キロ圏内にあたる平田地域伊野地区で行い、地元の消防団や住民など、約100人が参加しました。

島根原子力発電所がテロ攻撃を受け、原子炉を緊急停止する際に重大トラブルが発生し、放射性物質が放出される危険性が高まったため、市は出雲市災害対策本部を設置し、伊野地区に避難勧告を発令。参加住民は消防団による避難誘導により、伊野コミュニティセンターに集合し、避難しました。

参加者は、「実際にこのようなことがあってはいけませんが、もしもに備えることは大事」と顔を引き締めていました。



出雲市災害対策本部では、被害状況の説明や携帯電話を使用した「災害時映像伝送システム」により平田支部(平田支所)と連絡を図るなど、本番さながらの訓練を行いました(11月2日 出雲市役所)